

# 令和5年度琉球大学法科大学院

## A日程 法学未修者コース記述式試験 問題

令和4年9月4日(日曜日)

10時00分～10時45分(45分)

### 【注意事項】

試験開始の合図があるまでに、次の注意をよく読んで、間違いのないように受験して下さい。

- 1 試験開始後、問題文に不具合があれば直ちに申し出てください。
- 2 解答用紙の冒頭欄に印刷されている試験科目名の文字を丸で囲み、また空欄に数字を記入して、その解答用紙が「何法に関する答案の何枚目であるか」を示してください。また、答案に用いたすべての解答用紙の所定欄に、受験番号と氏名を記入してください。
- 3 黒色または青色であれば、筆記用具は問いません。ただし、鉛筆書きの場合は文字が薄くならないように十分注意してください。
- 4 試験開始後は、途中退席できません。用便を希望する際は手をあげてください。
- 5 試験終了後、解答用紙を回収するので、指示があるまで席を立たないでください。
- 6 その他は、すべて監督者の指示に従ってください。

### 【問題】

以下の記述は、「柔らかな個人主義の誕生 ～消費社会の美学～」(山崎正和著)からの一節である。この記述を読んで、以下の各設問に答えよ。

なお、原文において旧仮名遣いの箇所は、本問題文においては現代仮名遣いで表記している。また、原文にはないが、本問題文では本文中に(※1)～(※3)を付し、末尾に「読み」と「意味」を付記した。

### 【記述】

(省略)

(設問)

「社会が高齢化する」とどうなると筆者は考えているかを述べ、これに対するあなたの意見を簡潔に示しなさい。

なお、その際、①筆者が異を唱える考え方を具体的に指摘し、また、②筆者が「無視できない」と述べている「個人の個別化に寄与する力」とは何を意味しているかを説明し、それらを含めて、③筆者が結論を導く理由を明確にすること。

以 上

### 【出題趣旨】

本評論において、西洋の伝統的な個人主義を産業化社会の産物としてとらえた筆者は、現代日本の社会に見られる個人主義の萌芽を新しい脱産業化という観点から考察し、大きく変化している日本社会を鋭く捉え、論じている。

本問では、このような筆者の考えを理解したうえで、「社会の高齢化」について、受験生の自由な発想の下に、説得的に自身の意見を論証することを求めている。

### 【採点基準】(45点満点)

#### 1. 「筆者が異を唱える考え方」とは(10点)

- ① 下記のポイントの押さえ方 6点
- ② まとめ方(論理性、表現) 4点

《ポイント》

- ・ 社会を「青年」と「それ以外(高齢者)」と二極化して捉え得る。 2点
- ・ 「青年」は生理学的に等質的で、肉体的にも精神的にも同質的であり、体力も優れており、文明国の社会的な活力は青年が支えている。 2点
- ・ 社会のなかに高齢者の割合が増えると、社会の無気力化をもたらし、保守的な硬直化を引き起こす。 2点

#### 2. 筆者が「無視できない」と述べている「個人の個別化に寄与する力」とは(10点)

= 「これまでの日本を支配してきた世代意識の変化」の及ぼす影響力 6点  
より具体的には以下のとおり。

- ・ 従来の意識構造 2点
- ・ 新たに生まれる意識構造 2点

#### 3. 「社会が高齢化する」とどうなると筆者は考えているか、その理由。(15点)

(理由)

- (1) 第一 高齢者に内在する性質(高齢者そのものの多様性) 5点
- (2) 第二 高齢者の増加の対外的影響(世代意識の変化) 5点

(結論)

これらによって、風俗や世界観にかかわる、社会の気風のいちじるしい多元化がもたらされ、個人が「個別の存在」として認識される多様化社会、換言すれば「柔らかい個人主義」の主導する社会となる。 5点

#### 4. 前期3に対し、いかなる意見をもつか。(10点)

- ・ 自身の論拠の説得性 5点
- ・ 反対の立場への配慮 2点
- ・ 全体的な論理性、説得性、表現力 3点
- ・ 裁量点 0~+5点

以 上